

平成二十四年度 密教文化研究所だより

今年度高野山大学では、大阪市の精密機器メーカー（株）フジキンより前会長小川修平氏の遺志金の御寄付を頂き、「高野山大学フジキン小川修平記念講座―宗教と科学の対話」が発足しました。

これを用いて密教文化研究所は、共同研究プロジェクトの一つ「密教と現代社会の諸問題に関する研究」の一環として「宗教と科学の対話」をテーマとする講演会、研究会を開催することとなりました。

今年度の定例の合同研究会（課題「弘法大師の思想とその展開に関する研究」、  
「密教の形成と流伝に関する研究」、  
「密教と現代社会の諸問題に関する研究」）、及び講演会、輪読会は、左記の通りである。

○密教文化研究所研究会

第1回9月27日（木）

川田薫…真言密教と科学の初歩的な比較論 その1 六大と科学

南昌宏…空海「贈野陸州歌」の欠字を補う試み

第2回11月1日（木）

大塚伸夫…第二期時代の初期密教の特徴について

第3回11月22日（木）

乾仁志…『金剛界マンダラに描かれる賢劫千仏』のその後

第4回12月6日（木）

静春樹…インド密教金剛乗の全体図明確化への途上で―サキャ派祖師たちの

「タントラ現観」およびアティシヤの事例

第5回12月13日（木）

鈴木晋怜…既成教団の課題と寺院・僧侶のあり方

―総合調査から見えてくること―

下西忠…西行歌「けふや君」の解釈―美福門院の納骨―

第6回1月10日（木）

森雅秀…戦時中の熱河における逸見梅栄の「喇嘛教」調査

佐藤隆彦…唯一神道と十八道次第の関わり

井上ウイマラ…東日本大震災復興支援活動から見えてきたもの

第7回1月17日（木）

加納和雄…チベット伝存の仏典梵文写本の由来・伝播および近年の研究動向

森崎雅好…被災地の復興期における僧侶の役割について

第8回2月19日（火）

室寺義仁（滋賀医科大学教授）…仏教瞑想に係わるパーリ聖典用語について

―「四念処」「四梵住」「無我と非我」「無常」「苦」―

（まとめ）と「三法印」について

○密教文化研究所講演会

第1回4月12日（木）

―「宗教と科学」講座開設に向けて―

講師…森勇介（大阪大学工学部教授）

内容…密教の教えによるプロジェクト活性化

講師…根岸和政（大阪大学工学部特別研究員）

内容…心理学的アプローチによる密教へのいざない

講師…小川哲生（大阪大学大学院理学研究科教授）

内容…高野山大学と大阪大学のコラボレーション

第2回7月4日(水)

講師…奥健夫(滋賀県立大学教授)

内容…心と生命の科学

第3回10月25日(木)

講師…小川哲生(大阪大学大学院理学研究科教授)

内容…光とは何か? 現代物理学への誘い

○密教文化研究所輪読会 テキスト『三教不斉論』

平成二十四年度は密教文化研究所受託研究員として、十六名、サンニャ・ユルコヴィッチ・シュミット(Sanja Jurkovic-Schmidt)、中谷征充(以上二名、高野山大学大学院博士後期課程修了、博士(密教学))、石部道明、神田英昭、柴谷宗叔、瀬岡吉彦、徳重弘志、野口博司、平賀由美子、淵田雲溪、前田禮子(以上九名、高野山大学大学院博士後期課程単位取得退学)、辻村優英(京都大学大学院博士後期課程修了、博士(人間・環境学))、上野康弘(京都大学大学院博士後期課程単位取得退学)、坂口太郎(京都大学大学院人間・環境学研究所博士後期課程)、大柴清圓(中国国立中山大学中国語文学系古文字学専攻博士課程修了、文学博士)、藤巻和宏(近畿大学准教授)、各氏を受け入れている。

高野山大学では密教文化研究所初代所長中野義照博士の業績を顕彰するため、平成十二年から「中野義照博士奨学金」を設けている。平成二十四年度は一件の申請があったが、第2回密教文化研究所協議会において選考の結果、採択者なしと決定した。

密教文化研究所構成員名簿(平成二十五年二月現在)

所長	中村 本然(文学部教授)
専任研究所員	加納 和雄(文学部助教)
	南 昌宏(文学部教授)
兼任研究所員	乾 仁志(文学部教授)
	井上ウイマラ(文学部准教授)
	佐藤 隆彦(文学部教授)
	下西 忠(文学部教授)
	野田 悟(文学部助教)
	森崎 雅好(文学部助教)
委託研究員	池田 将則(韓国、金剛大学校仏教文化研究所研究員)
	大塚 伸夫(大正大学准教授)
	川田 薫(菟川田研究所代表取締役)
	倉本 尚徳(龍谷大学アジア仏教文化研究センター博士研究員)
	斎藤 明(東京大学大学院教授)
	静 春樹(高野山大学講師)
	鈴木 晋怜(智山伝法院常勤教授)
	藤井 淳(駒澤大学講師)
	船山 徹(京都大学教授)
	村田 みお(京都大学大学院博士課程)
	森 雅秀(金沢大学教授)
	トーマス・ドライトライン(高野山大学講師)
顧問	松長 有慶(名誉教授)
事務室長	木下 浩良
係長	西原 司朗
嘱託	田寺 則彦

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

第1条 密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。

第2条 編集委員会は、次の委員をもって構成する。

(1) 研究所長

(2) 専任研究所員

(3) 「紀要」編集担当者

2 編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。

第3条 編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。

第4条 編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。

(1) 「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。

(2) 「紀要」寄稿者への補筆および修正の要請。

第5条 委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。

第6条 この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。

附則

1 この規程は、平成九年四月一日から施行する。

1 この規程は、平成一四年五月二二日から施行する。

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

第1条 『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。

第2条 「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。

(1) 研究所長

(2) 研究所員

(3) 研究員

(4) 編集委員会が適当と認める者

第3条 原稿は、原則として四百字詰原稿用紙七十枚以内とする。

第4条 原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な変更・追加等は認めない。

第5条 寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆

および修正を求めることができる。

第6条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。

第7条 寄稿者には、掲載誌二部および抜刷三十部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。

附則

1 この規程は、平成九年四月一日から施行する。

執筆者紹介（掲載順）

中谷 征充 密教文化研究所受託研究員

（高野山大学大学院博士後期課程修了、博士（密教学））

川田 薫 密教文化研究所委託研究員

（南川田研究所代表取締役）

坂口 太郎 密教文化研究所受託研究員

（京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程）

平賀由美子 密教文化研究所受託研究員

（高野山大学大学院博士後期課程単位取得退学）

石部 道明 密教文化研究所受託研究員

（高野山大学大学院博士後期課程単位取得退学）

辻村 優英 密教文化研究所受託研究員

（京都大学大学院博士後期課程修了、博士（人間・環境学））

静 春樹 密教文化研究所委託研究員

（高野山大学講師）

編集後記

○『高野山大学密教文化研究所紀要』第二十六号をお届け致します。

本号は、中谷征充・川田薫・静春樹・辻村優英・石部道明・平賀由美子・坂口太郎の先生方より玉稿を賜り、大変充実した内容となりました。

言うまでもないことですが、これら力作揃いの論考は、本年度の密教文化研究所の研究成果の一端を飾るものです。

読者諸氏におかれましては、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

○本年度の密教文化研究所の事業につきましては、彙報において触れました通り、（株）フジキン会長小川洋史様より、故小川修平氏の遺志金としてご寄附を頂き、「高野山大学フジキン小川修平記念講座―宗教と科学の対話」が発足しました。

これを受けて、当研究所では内外に向けて研究会・講演会を開催しました。

次年度につきましても、さらに本事業の展開をすべく、中村本然所長を中心として研究所一同、企画立案しております。

どうか、ご期待ください。

（木下）

高野山大学密教文化研究所紀要 第二十六号

平成二十五年二月二十一日 印刷

平成二十五年二月二十五日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 中村 本然

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学

電話〇七三〇五六―二三九〇 番六四八〇二八〇

印刷所 株式会社ウイング

和歌山市梶取一七一―

電話〇七三〇四五三二五七〇〇 番六四〇八四一一